



豊かな知を創造し 力のある教員を育てる

福岡教育大学

University of Teacher Education Fukuoka

参考資料3

平成29年度文部科学省受託研究:学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究
全国学力・学習状況調査の結果を活用した,九州各県・
地域の学力課題の詳細な分析に基づく教育施策の評価
と検証改善サイクルの充実にに関する調査研究

国立大学法人福岡教育大学
教育総合研究所



【内容】

I .九州各県の学力向上の取組の検証

II .九州全域における学力の実態
—都市規模に着目した分析—

III .地域の実情及び学校課題に応じた
検証改善サイクルの構築に向けた検討

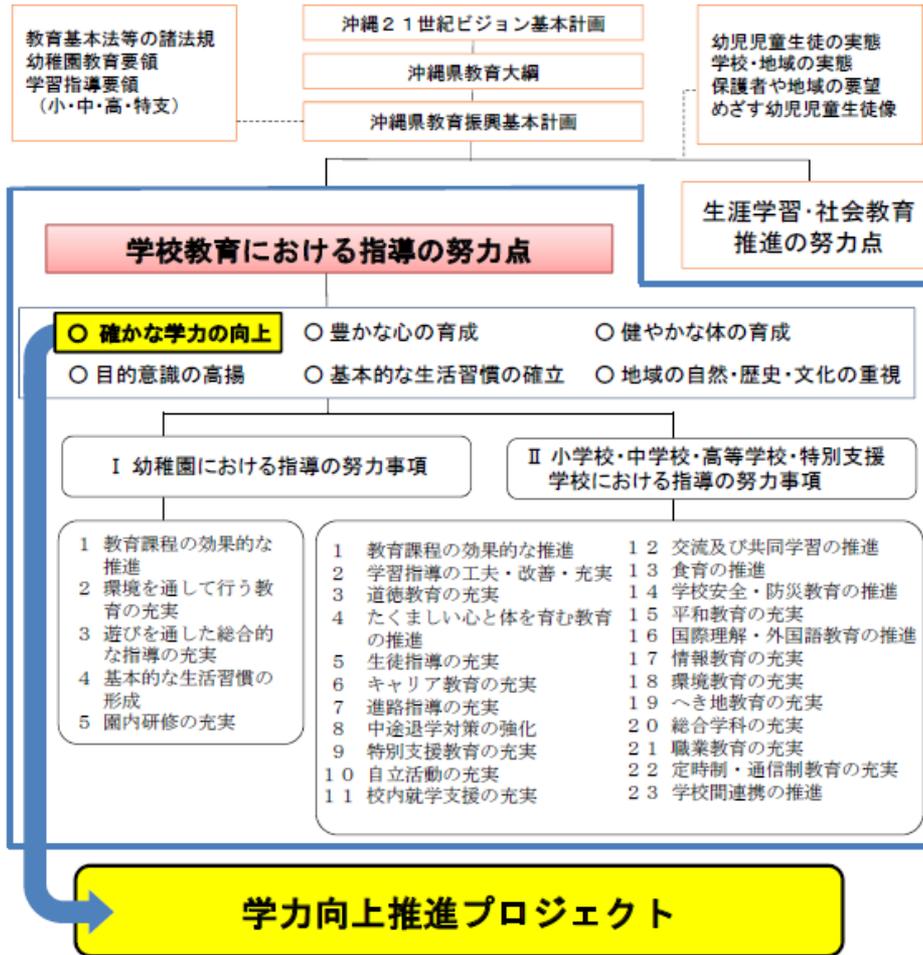
I 九州各県の学力向上の取組の検証

【調査研究】

九州各県教育委員会における学力向上施策及び成果指標に関する実態調査を実施

→その上で、九州各県の学力向上に係る教育施策や成果指標を検討し、各地域や学校における検証改善サイクルを促進するものとなっているかどうかを検証

学力向上に係る九州各県の取組 (沖縄県教育委員会の場合)



III 授業改善6つの方策

幼児児童生徒の「確かな学力」の向上を図るため、県教育委員会、市町村教育委員会、学校が連携し、授業改善6つの方策をもとに取組を進める。

方策1 めざす授業像の共有

めざす授業像を共有し、授業改善の取組を展開する

方策2 教材研究の充実

多様な教材研究の方法を共有することで、授業改善の推進力を高める

方策3 学力向上マネジメントの推進〈共有・浸透〉

マネジメントを機能させ、全校体制で取組を推進する

方策4 学習を支える力の育成

学習を支える力を育成することで、子供たちの学習意欲を高め授業改善を下支えする

方策5 集団づくり・自主性を高める取組の充実

支持的風土づくりや生徒指導のポイントを生かした授業改善を推進する

方策6 教育行政による効果的な支援体制の構築

教育行政の学校支援体制を充実させ、学校と共に授業改善を推進する

調査研究結果

全体的な課題に根ざした取組を推進している一方で、地域の実情や課題に根ざした取組を促進するまでには至っていない。

学力向上に係る九州各県の取組 (佐賀県教育委員会の場合)

指標名	単位	現状	目標			
		H26年度 (H25年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
指標1 全国調査の教科に関する調査における平均正答率の状況	区分	8区分中1区分で全国平均以上	8区分中2区分で全国平均以上	8区分中4区分で全国平均以上	8区分中6区分で全国平均以上	8区分中8区分で全国平均以上
指標4 全国調査の児童生徒への質問で、話し合う活動を通じて自分の考えを広め、深めることができていた児童生徒の割合	%	小学校 65.9	67.0	68.0	69.0	70.0
		中学校 65.0	67.0	68.0	69.0	70.0

佐賀県総合計画2015 第3章施策分野毎の基本方向より

調査研究結果

成果指標としての目標値は設定しているが、ここから、各地域や各学校における取組指標を設定することは難しい。

Ⅱ 九州全域における学力の実態 —都市規模に着目した分析—

【調査研究】

九州全域における児童生徒の学力の実態を用い
(平成29年度調査結果より)都市規模別でみる。

→これを利用し、学力向上に関する重点的な施策
を展開する上で、地域を特定することができるかど
うか検討を行う。

平成29年度調査の結果※標準化得点による分析

※各教科の全国(公立)平均正答率を100とした場合の得点

小学校	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
九州(全域)	100.9	98.1	100.8	98.0
九州(大都市)	101.8	100.0	100.8	98.0
九州(中核市)	101.8	100.0	101.7	100.0
九州(その他の市)	100.9	98.1	100.8	96.1
九州(町村)	100.0	98.1	100.8	96.1

中学校	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
九州(全域)	98.8	98.5	96.6	95.8
九州(大都市)	100.4	100.0	98.3	98.6
九州(中核市)	99.6	100.0	98.7	98.6
九州(その他の市)	97.2	95.4	94.4	93.1
九州(町村)	96.8	95.4	94.8	94.4

調査研究結果

九州全域において、検証改善サイクルの充実から学力向上を図るための重点地域は、小学校、中学校とも「その他の市」及び「町村」といえる。

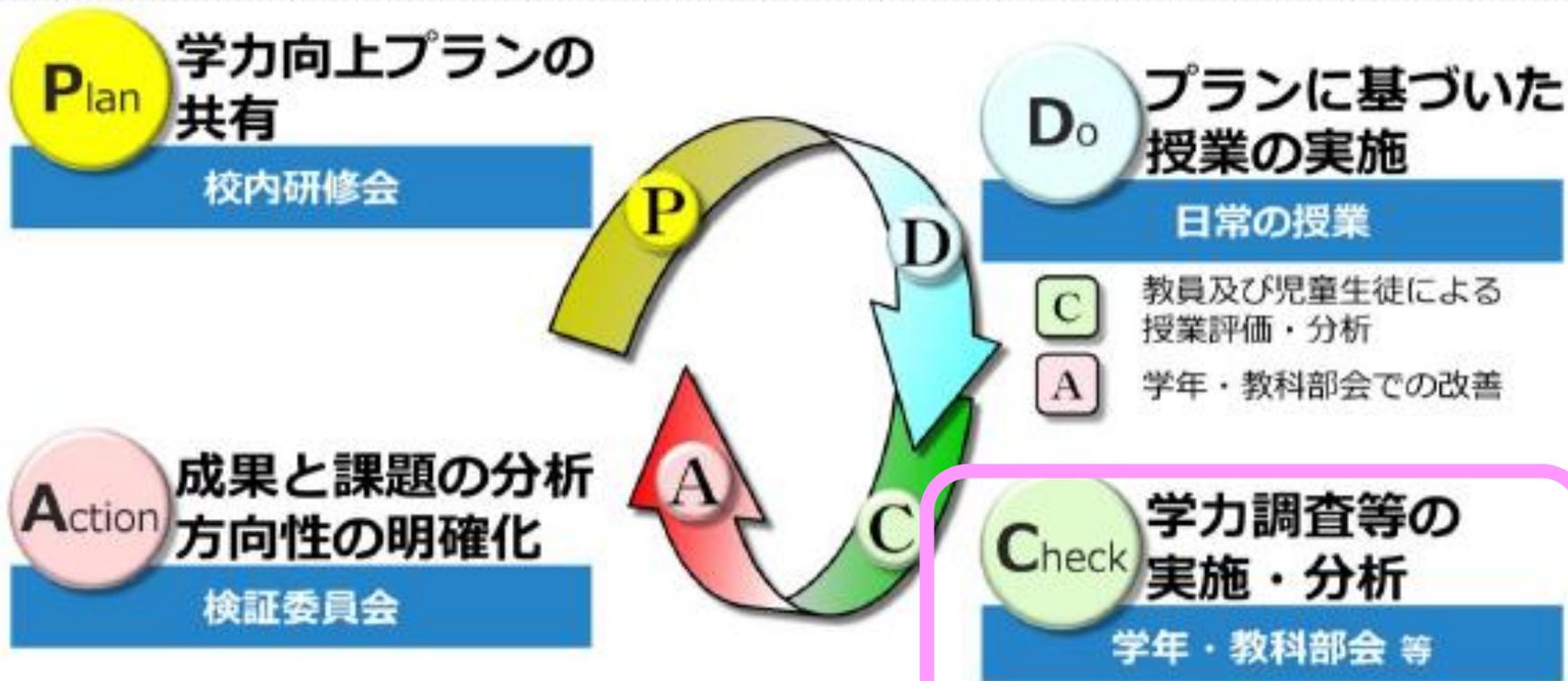
Ⅲ 地域の実情及び学校課題に応じた 検証改善サイクルの構築に向けた検討

【調査研究】

自校の学力課題を的確に把握し、授業改善を促進するためのPDCAサイクルの在り方を検討

→自校の学力課題を概括的に把握するだけではなく、コンテンツレベルまで焦点化するための支援ツールの開発を行う

—福岡県教育センター調査研究事業と連携をした取組—



- 自校採点分析ツールの開発
- 学力×学習状況関連分析ツールの開発

自校採点分析ツールの開発

自校の結果分析 小学校国語A TOP

設問番号	設問の概要	自校正答率	全国公立正答率	リンク
1	学級文集のタイトルを決める話し合いにおける野村さんの発言の説明として適切なものを選択する	%	69.2%	問題 類型 指導 関連問題
2-1	お礼の気持ちを伝えるために、どのよう内容を書いているのか、書かれている内容の説明として適切なものを選択する	%	79.7%	問題 類型 指導 関連問題
2-2	手紙の送付に必要な、日付、署名、宛て名のそれぞれの位置について、適切なものを選択する	%	41.5%	問題 類型 指導 関連問題
3	学級新聞を書くために、「時の記念日」についての【資料】から、小野さんと今村さんが中心に読むとよい段落をそれぞれ選択する	%	74.4%	問題 類型 指導 関連問題
4-2	グループの話し合いを通して見付けた俳句のよさとして適切なものを選択する	%	57.0%	問題 類型 指導 関連問題
5-1	ことわざの使い方の例として適切なものを選択するものはもち屋	%	83.6%	問題 類型 指導 関連問題
6	【「外郎売」の一部】を音読して気が付いたことの説明として適切なものを選択する	%	71.1%	問題 類型 指導
7-1	漢字を書く参加たいしよう	%	42.0%	問題 類型 指導

課題のある設問の内容 平成29年度全国学力・学習状況調査 小学校国語A1

1 野村さんの発言では、学級文集のタイトルを決めています。次は、学級文集のタイトルについて、多グループで話し合ったことを報告しよう。【報告場の一節】として、「問い」に答えてみよう。

【報告場の一節】

野村 学級文集のタイトルについて、学級全体で話し合っています。明るくかやがやというイメージの言葉にするところまで決まっています。それによって、これまで話し合ったことを中野さんのグループから報告しようかという意見が出てきました。

中野さんのグループでは、まだ何も決まらずというイメージから、「五輪」がよいという意見にまよりました。

ぼくはグループでも、「五輪」がよいという意見になりました。理由は「五輪は明るいし、わかりやすいから」という意見です。

野村 私のグループも、明るくかやがやというイメージの「五輪」がよいという意見がありました。しかし、学級の一々一人かやがやというイメージで「五輪」がよいという意見もありました。どちらにもよい意見で、「問い」にまよりました。でも、「五輪」がよくなる、「五輪」についても、ぜひみんなに考えてほしいです。

（報告場が続く）

2 一番多く決まされたことを報告しよう。

3 学級全体で取り上げてほしいことを報告しよう。

4 同じ意見でも理由がいろいろあることを報告しよう。

【問い】 野村さんは、どのようなことを報告していますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までのヤカン一つを選んで、その番号を書きましよう。

自校採点の目的は 児童生徒の実態の共通理解！

これまでも自校採点は行っていましたが、主幹教諭である私が一人で行ってました。しかし今回、全教職員で自校採点を行うことで、児童生徒がどこでつまづいているのか、児童生徒に必要なのはどのような力なのかを共通理解することができました。



学力×学習状況分析ツールの開発

平成29年度全国学力・学習状況調査

学力×質問紙調査

〇〇県△△町立■●小学校

質問番号	質問内容
14	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）

教科等	選択肢										
	4時間以上	3時間以上、4時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	30分以上、1時間より少ない	30分より少ない	携帯電話やスマートフォンを持っていない			その他	無回答
国語A	73.3	80.0	86.7	78.3	75.9	84.0	81.4	0.0	0.0	0.0	33.3
国語B	55.6	44.4	63.9	52.8	46.2	62.2	65.1	0.0	0.0	0.0	0.0
算数A	66.7	66.7	60.0	90.0	74.4	81.3	76.9	0.0	0.0	0.0	40.0
算数B	34.1	31.8	27.3	43.2	35.7	51.4	45.5	0.0	0.0	0.0	18.2

夏季休業中の校内研修会で 課題意識とモチベーションをアップ!

全国学力・学習状況調査の結果から、2学期の授業改善の方向性を確認する校内研修会を研究主任として企画しました。外部講師の先生から、これまでの取組の価値付けやアドバイスをいただくことで、先生方の課題意識とモチベーションはさらに高まりました。

